

しゆしようぎ だいさんしよう じゆかいにゆうい
修証義 第三章 受戒入位

つぎ ふか ぶつぼうそう さんぼう うやま たてまつ

次には深く仏法僧の三宝を敬い奉るべし、

しょう か み か さんぼう くよう うや

生を易え身を易えても三宝を供養し敬い

たてまつ ねご さいてんとうどぶつそ

奉らんことを願うべし、西天東土仏祖

しょうでん ところ くぎようぶつぼうそう

正伝する所は恭敬仏法僧なり。

も はくふくしょうとく しゆじよう さんぼう みようじな

若し薄福少徳の衆生は三宝の名字猶お

き たてまつ いか いわん き え たてまつ

聞き奉らざるなり、何に況や帰依し奉るこ

え いたず しよひつ おそ さんじん

とを得んや、徒らに所逼を怖れて山神

きじんとう き え あるい げどう せい た

鬼神等に帰依し、或は外道の制多に

き え なか かれ その き え よ

帰依すること勿れ、彼は其帰依に因りて

しゆうく げだつ な はや ぶつぼうそう

衆苦を解脱すること無し、早く仏法僧の

さんぼう き え たてまつ しゆく げだつ

三宝に帰依し奉りて衆苦を解脱するのみ

あら ぼだい じょうじゆ
に非ず菩提を成就すべし。

そのき えさんぼう まさ じょうしん もつば あるい

其帰依三宝とは正に浄心を専らにして或

によらいげんざいせ あるい によらいめつご

は如来現在世にもあれ、或は如来滅後に

がつしやう ていざ くち とな いわ

もあれ、合掌し低頭して口に唱えて云く、

なむきえぶつ なむきえほう なむきえそう

南無帰依仏、南無帰依法、南無帰依僧、

ほとけ こ だいし ゆえ き え ほう

仏は是れ大師なるが故に帰依す、法は

りょうやく ゆえ き え そう しょうゆう

良薬なるが故に帰依す、僧は勝友なるが

ゆえ き え ぶつでし かなら さんき

故に帰依す、仏弟子となること必ず三帰

よ いざ かい う かなら さんき

に依る、何れの戒を受くるも必ず三帰を

う そののちしよかい う しか

受けて其後諸戒を受くるなり、然あれば

すなわ さんき よ とくかい

即ち三帰に依りて得戒あるなり。

このき えぶつぼうそう くどく かなら かのうどうこう

此帰依仏法僧の功德、必ず感応道交す

るとき成就するなり、設たい天上人間地獄てんじょうにんげんじごく

鬼畜きちく

なりと雖いえども、

感応道交かんのうどうこうすれば必ず

かなら

鬼畜きちくなりと雖いえども、感応道交かんのうどうこうすれば必ず

帰依きえ

し奉るたてまつなり、

已すでに

帰依きえ

し奉るたてまつが如き

ごと

帰依きえし奉るたてまつなり、已すでに帰依きえし奉るたてまつが如き

は生生世世しやうしやうせせぜいぜい在在处处いしよしよに増長ぞうちやうし、

必ず積

かなら

しやつ

功累徳くろいとくし、阿耨多羅三藐三菩提あのをくたらさんみやくさんぼだいを成就じやうじゆう

するなり、

知るべし三帰さんきの功德くどく其れ最尊さいそん

最上さいじやう甚深じんじん不可思議ふかしぎなりといふこと、

世尊せそん已すでに証明しやうみやうします、衆生しゆじやう当まさに信受しんじゆすべ

し。次つぎには応まさに三聚淨戒さんじゆじやうかいを受け奉るたてまつべし、

第一だいいち攝律儀戒しやうりつぎかい、第二だいに攝善法戒しやうぜんぽうかい、第三だいさん攝

衆生戒しゆじやうかいなり、次つぎには応まさに十重禁戒じゆうじゆうきんかいを受け

衆生戒しゆじやうかいなり、

次つぎには應まさに三聚淨戒さんじゆじやうかいを受け奉るたてまつべし、

第一だいいち攝律儀戒しやうりつぎかい、第二だいに攝善法戒しやうぜんぽうかい、第三だいさん攝

衆生戒しゆじやうかいなり、次つぎには應まさに十重禁戒じゆうじゆうきんかいを受け

たてまつ
奉るべし、第一不殺生戒、第二不偷盜

かい だいさんふじやいんかい だいし ふもうごかい
戒、第三不邪淫戒、第四不妄語戒、

だいがこ ふ こ しゆ かい だいろくふせつか かい
第五不酤酒戒、第六不説過戒、

だいしちふじさんきたかい だいはちふけんほうざいかい
第七不自讚毀佗戒、第八不慳法財戒、

だいくふしんいかい だいじゆうふほうさんぼうかい
第九不瞋恚戒、第十不謗三宝戒なり、

じょうらいさんきさんじゆじようかい じゆうじゆうきんかい こ
上来三帰三聚浄戒、十重禁戒、是れ

しよぶつ じゆじ ところ
諸仏の受持したまう所なり。

じゆかい ごと さんぜ しよぶつ じよじよう
受戒するが如きは、三世の諸仏の所証な

あのくたたらさんみやくさん ぼだい こんごう ふ え
る阿耨多羅三藐三菩提 金剛 不壊の

ぶつか じよう たい ちにん こんぐ
仏果を証するなり、誰の智人か欣求せざら

せ そんあき いっさいしゆじよう ため しめ
ん、世尊明らかに一切衆生の為に示しま

しゆじようぶつかい う すなわ じよぶつ
します、衆生仏戒を受くれば、即ち諸仏

の位に入る、位大覚に同うし已る、真に
是れ諸仏の子なりと。

諸仏の常に此中に住持たる、各各の方面

に知覚を遺さず、群生の長えに此中に

使用する、各各の知覚に方面露れず、是

時十方法界の土地草木牆壁瓦礫皆

仏事を作すを以て、其起す所の風水の

利益に預る輩、皆甚妙不可思議の仏化

に冥資せられて親き悟りを顕わす、是を

無為の功德とす、是を無作の功德とす、

是れ発菩提心なり。

年月日

氏名

謹写